

伊達政宗年記

武鑑二

克

三二五六七	和書門
一九五函	類
九架	
九二冊	

三三五七	和書
九二冊	類
一九五函	
九架	

和	32567
冊數	(33)
函號	932 122

現九二一内

共五十七



伊達政宗少年記

武鑑二

三二	一	三	和
二二	九	二	書
一六	九	七	類
七	架	架	

原	文	内	
二	三	和	
五	二	書	
兩	九	架	
一	二	架	
九	架		

三	二	一	和
二	九	七	書
七	架	架	類

現九十二内

共五十七

赤徒方萬年記卷之貳拾三

正德四甲午年

赤徒方居宅類焼之者江夏

赤借米取越江中事

赤城廻笠江ふ里江儀多用江可致

赤書付

赤金銀通用江儀江付赤書付

赤琉球人登城

赤新錢出来江儀江付赤書付

正月廿一日
廿二日

四月九日

五月十日

十二月二日

十二月十日

正德五乙未年

一新金銀之儀二付出書付

四月廿五日

一 沛城内供之儀不作法無之松
出書付

四月廿九日

一 公事誦詔之儀二付出書付

七月六日

一 養子縁組又若沛奉公二付
召出二付出書付

十月廿日

法徒方萬年記卷之貳拾三

正德四甲午年

一 三月中諸法規式如例年相濟

一 三月十日

法徒頭

朽木土佐右組高十石

高田忠右政

宿所表貳番町

法月付

二九法苗守居

石吾七之助

右法 作付之

同日

午上割牛込赤城中町家方出火三付増火消
大名五人法 作付所奉書出本以番建部
甚右馬組由徒勤之

一二月十五日

所禮衆之内

結目之由禮

金貳拾枚
時服六

名代

小笠原造酒之助
小笠原近江守

小笠原信濃守遺物

所刀

行光
代金貳拾枚

一位様江

堀川百首和歌 雅親卿筆

三位様江

仔勢物語 二條為家筆

一二月廿一日

為所機嫌伺由三家方所登城

同日

時服十

小笠原右近將監

右紅葉山 御靈屋 侍手傳古勤_{ウツ}月為
侍厚衣美法_{ウツ}之

同日

尤之通法作渡之

中山勤_{ウツ}由組

組頭武人

侍從武拾人

新庄仔織組

侍從拾三人

柴田三九馬組

組頭武人

侍從武拾人

金田惣八郎組

侍從四人

土屋敷馬組

組頭武人

侍從拾七人

春日内藏助組

侍從武人

佐々木五郎右馬組

組頭武人

侍從武拾人

中山主馬組

侍從九人

戸田助太丈組

組頭武人

侍從武八人

飯河善九馬組

組頭武人

侍從拾四人

戸田庄右馬組

組頭武人

侍從武八人

長谷川半四郎組

組頭武人

侍從武拾人

高田忠右衛門組

組頭 貳人

侍 拾五人

右居宅頼焼二月願之通當^午復出借米
取越^下

右侍書付大久保山城守殿助誥番中山主水
渡

一正月廿二日 尤之通侍書付水野監物殿誥番高田

忠右衛門 江渡

林藤四郎組

組頭 貳人

侍 拾七人

江原典右衛門組

組頭 貳人

侍 拾五人

永田弥九郎組

組頭 貳人

侍 拾七人

右居宅頼焼二月當午復出借米取越^下

右侍書付水野監物殿誥番高田忠右衛門
渡

同日

城度紅葉山 津靈屋 此普請 以手傳
在勤中 二付小笠原右近將監家来九人 以褒美
張下之

一 正月廿六日

町奉行

右 乾病氣願之通 此役 丹羽遠江守
津免

一 正月廿八日

町奉行

中山出雲守時春
仔執力 仔勢 寫真致

此勤定頭

此普請奉行

朽木弥五九郎

右之通 此 作付之

一 正月廿九日

松平肥後守

酒井雅樂頭

相馬讚岐守

右 荒川利根川 此普請 此子傳 此

作付之

一 二月朔日

此勤定奉行

仔勢 仔執 寫

此目付

仙波七郎九郎

右金吹直法用法 作付之

一二月四日

為伺 淨機嫌法三象方以登
城有之

一二月九日

招平至汗瓦組
又八郎次

百五拾俵

水野浅之助

七人扶持

太田辰九郎

元正院目付

大島肥茶宮紐

拾人扶持

山岩佐弥五九郎

同断

鳥井甚三郎

孫之丞次

元二九張番

七人扶持

清水友右衛門

武拾人扶持

吉田快隆

盛次院方

大久保溪路書紐

五百俵

田中平四郎

七人扶持

岡本惣太史

元二九張番

元正院

七拾俵
五人扶持

村山半九郎

右之通 法切采法扶持方
法中昔今日法
作付之

一二月十一日

清月付

佐_三木五郎右衛門正
上田新四郎
山岡助右衛門
庸

右被 仰付之

一二月十五日

内院正

内留守居
大久保淡路守經小普清正

諏訪兵部

佐_三木五郎右衛門
高武子石岩所赤坂溜池際

右法 仰付之

一二月十八日

金田惣八郎

右當年平治法用注 仰付用意可致昔
於括搜之間秋元但馬守殿法作渡之

一二月十九日

日光新宮
日光准后

右於清黑書院 清對願
秋日表向五半時捺且
清月通正出中者布衣以上清役人鬘斗月

長袴着用

一二月廿一日

法三家方格登 城有之

一二月廿三日

法大老

井仔掃部頭

直談

右願之通 沛懇之 上意之為役

沛免英隱居法 仰付之

右付於芙蓉之間在合之布衣以上之西役人

法老中法列座之秋元但馬守殿右之趣并

掃部頭殿家督佑中守江無相違法下旨
法作之

新田長万石

掃部頭次男

井仔周幡守

直定

元文延享之法掃部頭也

右願之通法 仰付之

一二月廿九日

秋元但馬守殿沛奉書極村土佐守松平
式部少輔_江出法使本法番江原典右惠組_江統
勤之

一三月五日

於評定所大奥年寄女中繪島一件内仕至
相濟

永遠流

繪島

内門

後藤縫及助

永遠流

平田伊右衛門

永遠流

右手代

清助

死罪

白井平右衛門

追放

右同新

次郎兵衛

永遠流

奥山交竹院

構無

右同新

七兵衛

流罪

金井六右衛門

流罪

津加屋

善六

追放重科

豊島平八郎

流罪

山村長太夫

内代官

同新

金丸四郎兵衛

流罪

生島新五郎

改易

西子一右衛門

永遠流

中村清五郎

流罪

平田彦四郎

追放

滝井半四郎

追放

松山平四郎

内預流罪

白井伊織

遠慮

足田彦十郎

追放

金丸又三郎

死刑ニ在當りて
於水戸殿其沙汰
可有

奥大山吉内

同新

平七郎

四人共十五人
同人子

平右衛門子

長太夫抱役者

狂言芝居役者

右同新

木挽町
在言芝居座元

追放 六右馬子 金井六助 同人子 同 三十郎

右之通法仕置相濟

一三月七日

不時法禮有之

淨黑書院

真淨太刀佑希重助 代金七牧 家督之代禮 井仔備中守
黃金五拾牧 綿五拾把
金五牧 時服三 井仔周幡守
新田之法禮

金馬代 時服十

隱居之法禮

井仔右馬督

名代

井仔兵部少捕

右法禮二付備中当家来木侯法九馬始外之人
淨月見献上物古法以外法禮眾畧之

一三月十四日

公家元上野増上寺 法 輪系詣如例勤番也

一三月十五日

法留守居番 辛田仔右馬代 淨月付不 武島庄兵衛

寄合々高千石

吉田小右衛門

中山勘々由治

右法 作付之

右小右衛門後年先手勤役之輩改治字

同日

金田惣八郎守治法眼法下拜領物并
組法徒法下物如例年

一 三月廿二日

為伺 御機嫌法三家方以登 城有之

一 四月七日

尤之 法藏法證文鳥居仔賀吉敬浩以番永田
弥九郎 法渡之

覓

高田忠右衛門法成

元松希仔更吉組

櫻井茂九郎

右唯今迄七人扶持取来以處今度忠右衛門組
法徒七拾俵五人扶持取来人明々中跡上
茂九郎法入人成並之通七拾俵五人扶持
法下中但希之法徒之者頼火之逢當夏

法借米取越法取_レ以後法依_レ成_レ故
夏法借米返納_レ無_レ依_レ茂元_レ儀
當冬法切米_レ法取_レ苦_レ得_レ當夏
法借米_レ分_レ武拾三俵_レ冬_レ切米_レ
並_レ通_レ法_レ渡_レ從來_レ未_レ七_レ拾_レ俵
五人扶持_レ積_レ可_レ法_レ且_レ又_レ家_レ取_レ米
七人扶持_レ當_レ三月_レ上_レ並_レ通_レ五人扶持
當_レ三月_レ勿_レ論_レ茂元_レ儀_レ法_レ
退_レ第_レ法_レ譜_レ代_レ者_レ故_レ元_レ通_レ七_レ人扶持
成_レ間_レ可_レ法_レ得_レ其_レ意_レ以上

正德四十年四月七日

山城_レ平

長門_レ平

伊賀_レ平

監物_レ平

池田新兵衛

系原勘兵衛

右法證文書啓所_レ本_レ法_レ番_レ本_レ多久_レ五_レ郎_レ組
法_レ法_レ持_レ集_レ
右法_レ法_レ番_レ所_レ日_レ帳_レ記_レ有_レ

一 四月九日 无之書付出ル

泚城廻リ笠ふ里の儀常盤橋泚門
吳腹橋泚門銀沼橋泚門數寄屋橋泚門
日比谷泚門外櫻田泚門半藏泚門田安
泚門清水泚門雜子橋泚門一橋泚門
神田橋泚門右泚門之内に供へ者を勿論
家来其外一僕連の躰を之者を所人等笠
加ふ里の儀一切無用に可仕の兩天の幕を
制外に以上

四月

一 四月十七日

紅葉山

泚宮に為 泚名代秋元但馬守殿泚系詣

一 五月四日

泚仕置を泚一件之内

永田弥九郎

河合民右衛門

追放

右泚 仰付く

一 五月十五日

月並泚禮を泚

同日 尤之書付出ル

覺

慶長年中定至是の金銀の法元録
年中より至る始る其品改らる寶永
の度始る銀の品改らる是より以方
諸物の價も年々高直なる事
世の難儀も及いゆり是より希

清代清治世の始より金銀の不慶長
の法始るは返る是より近世以来諸國山
清本意よりいへる

山より出来りし金銀は數古来のことくに
無きは改らるる多き其法沙汰及
ち是より處も然中元録の金は換りし
法も其通用難儀より由は
開召及ぶる事より其沙汰も其後より
至る寶永の銀も其通用難儀より事
清聴も達し其故を尋ねるも是より
及い世も通行しは處も銀も其品
宜しからざる事も是より出来りし事
早速も銀吹出しは事も停止せし

其事の由来と由弘明し上其法沙汰
有原記 沛昔小由處小既よ
沛不例日小重らせり此由小法起り
去々年辰十月十日法書付せしり
思召の程残紙 仰出由此進ふより
當沛代小至りりり此法はうゝ世の人此
中沙汰一由事と由法と尋きり免らせ
各金儀の上残以り金銀の品慶長此
法の如く小あり返り此法は夏儀定
せり此由通用の法引替の定等此

事一を法ありらうり別紙小相見元由
亦とく小由今度此法沙汰小おみり
若沛代の沛昔小より此天下後代迄の
多め小以り此法事小由上と終る原記本と
より法一く覚語何るべき事小由あり
一身此利潤せしりりり多免小何事小
よりら此其通用此沛由事とも此出小
おみりりり
若沛代の沛昔
當沛代の法沙汰と違犯由のこ小あら

天下後代迄の罪人たぬる記とのふりて
急度其罪残紀とせりて嚴科小切ら
原き事小切是又其昔残相公泊り原記
との也

正徳四年甲午五月十五日

今度迄 作出の金銀の品慶長の諸定の
とく小なる返さる事去る年
辰十月十日
糸泔代迄 作出の泔昔小くこれ天中
後代迄のた免小泔泔汰の上

公儀泔費用此事小く論生ぬたは
雖然近也以来諸國山より出来りたの
金銀昔のとく小無くは残以て元録
以来の金銀等とく多皆改り迄
多くは年月と種原き事小くは残
以て其功終りて迄の間金銀通用の法と
定免らるる條と

一今度迄 作出の新金新銀若慶長以来
元録七年迄の古金古銀とく小及も
元録寶永の金銀皆と是残通用とて

但元録寶永等の金銀此事
公儀の御定は小おわらるるを慶長の法の如くは
金を五匁と以て銀六拾目小お當せらるるに
いへども内は小おみえたるを歩金歩銀等
多しは通用し来りし事其品は
高下同一なり故に然る上は此等
後元録以来不々の金銀と以て慶長の
法の金銀と其形も同一通用の事
を願はるるに小おわらるるを慶長以来
只今通用の金銀小至るより小おの

其品の高下小おりり割合は次
定免らるるに金の銀小おりり合
随いへるる通用し法と定免らるる
其割合の次序は別紙小お見し
一何事小おりり物の價と定りし事
通用し金の積り銀積りと以て其
立り其金銀の事と有合し隨ひ
金銀小おりり割合の定と以て新
古の撰い
那も通用を願はるる事

附借金銀の事は又以例小准を願はるる事

一 諸料并諸年貢の金銀納成始々
去々上納の金銀ホ是又通用の金積り
銀積りを以て勘定し其金銀の事を
合々小随いいり是れ小々割合此
定成以て通用の成
公儀所用の代金代銀とて是れ下
所成割合の定を以ていつ此の金銀
是れ通用いらぬ成也上小おろ
上下通用の法皆々此例小准去々事
一大判の事を元録年中小改ら是れ成

慶長の 大判小引多々一々小其品大々小
下々小おろは折色換り事おろく
よりり々寶永七年只今通用の金と法
作付の時成此法沙汰小及も是れ
今度小おろく小判を歩判ホ改
以後小諸沙汰の成層く其間々
公儀より是れ下々献上り品成其外
私小用いり不お皆々只今通用以來
大判也以て通用の成層き事
一 公儀に献上の銀並是れ下銀の事是又

只今通用の銀積りを用い其銀の事を
只今通用いし事り銀小くおまのくを
割合の定を以て今度迄 作付の新銀を
用いゆとも新古の撰ひなく通用河海
一層一一枚二枚の馬代およ至るおまは
准は層記事

一今度迄 作付の新金新銀を以て元録
以来品々の金銀小引替り事をと年を經
層記事小ゆより里を諸國在る所は
手考次第小連る引替りた免小江戸京

大坂三ヶ所小おろく引替り所を定の是ら
引替りものと相對し割合の定のおとく
其事の類なく引替り層くは 浅
お定免ら礼り事

附おし用事小松く今度の新金銀を
以て只今通用の金銀小引替り多ら
小おろくは是又割合の定浅以て
其是次第小引替り松小お定免ら是り事
一今度迄 作付の金銀の事を慶長年中より
元録七年迄の間通用し古銀古金と

其品本同一く巾上元録七年以前は
古金銀を引替り小不及今度の新金銀と
おちり一りく永く通用を為し事

右之條今度法 仰付り金銀世小所は初
流布ゆまろくの間に公私貴賤ととり
り後一く遵行何所厚記とあり也

正徳四年甲午五月十五日

新古金銀割合る次方

一慶長の古金も只今通用の金小十割増

右慶長の古金 世上小おいそ
注古金と稱す 是あ小も只今

通用の金式あて用厚一今度法

仰付り新金も此なるも此古金と其品

同一く巾故も其割増も又これよ同一

附只今通用の金と元録の金とは

其品小高巾何里といへとも其取の大小

何所と以て此二品も其差別をく一扱

用厚一但只今通用の金と元録金と

引替り例元録金百兩付り歩金と

只今通用の金式あて宛と増一加

来里の處も一其法と改免ら進り

元録金銭所持しゆものた免小不可
然し小より自今以後引替所小
おろし此二品の金と引替りよ歩金の
法も只今迄此例のつくある處起由と
定免らむ

一慶長の古銀只今通用の銀小十割増
右慶長の古銀世上小於く
姓古銀と稱す壹貫目小只今
通用の銀貳貫目と用——今度迄
仰付り新金銀も在り此古金銭
其品同一く故其割増又是小同——

附只今通用の銀元寶永七年以來出する
所の品も世上小おろし中銀三寶四寶等
と稱す其差別なく一松小用處——

一元録の銀も只今通用の銀小六割増右
元録銀世上小於く
元字銀と稱す壹貫目も只今通用の
銀も貫六百目と用也處——

一寶永始の銀も只今通用の銀小三割増
右寶永始の銀世上小於く
寶字銀と稱す壹貫目小只今
通用の銀も貫三百目と用也處——
此割合次第も別紙の定書小お見ゆこと小

今度迄 仰付申新金新銀世小以は福く
流布し申迄の間も新古銀と撰りて
皆ら通用河海へ交り多免小定めらるる
所小申乾中只今通用の銀此事も
慶長の古銀小引多ら厚小其品大き小
同一あらはれ申其品小應し割増成
定免ら申ゆり

公儀御費用小お及申はし慶長
御定の品のこそく小お返し返さ敷厚交
事よ申治世の多免小おるま其損失

阿るへきことよ申成以しこつ加小十割
増の法小定めら申ゆり其不足の不足に
公儀御費用と以し贖申は申り申
是則

承承代の御旨小し礼天下後代迄此
多免小申沙汰多し事小申條申海し
昔成申は治り申成定也申守厚交者也

正徳四年甲午五月十五日

諸國商人由替し申輩小可申渡事

元録寶永以来金銀の品改り申度小

其通用古幣は以て世の雜儀小至り申
あ替り商人亦みり申小銀の不足
高下り過分の利倍を求免りり申
事起る此由り今度金銀の品皆白り
慶長の法のごとく小あり返さる礼り
いとお元録以来の金銀ごとく皆
お改り造る其年數久りり申一を小りて
其間金銀通用割増の法錢定免
らむゆ凡金銀錢ホのあ替錢以り
家業とりり申上其時小應りり

お當の相場を何處層起事勿論より
若先り後小至りあ替の上お法起り
也の金銀通用り事おさまりり申
仕り出りり者みりり申おるり其
と急度厳科り行り申其由り申
訴出り者小おいりり申彼罪犯の者の家賊
以りり法りり申慶長の法何處
層きりり申也

平五月

一 五月十八日

初五 沛目見

真沛太刀備弟玉盛景

代金五枚

時服十

德川鶴千代殿

鶴千代殿初五

沛目見二枚

時服十
金馬代

水戸中納言殿

戸田左右衛門

内院殿

紫田三九郎

田色守右衛門

長瀨勘兵衛

右 沛 作付

一 五月廿一日

為伺 沛機嫌係三家方内登 城有

一 五月廿七日

紅葉山

文昭院様 沛靈屋 沛上棟有之相濟

帛刻

台徳院様於 沛靈屋 開眼沛供養有之付

文昭院様 沛上棟

沛靈屋廻り内番

紫田三九郎組共

台徳院様

御霊屋廻り御番

中山主水組

代り

永田弥九郎

右添帷子上下明ヶ六ッ時様

御名代に御沙汰無し惣御奉行井上

河内守殿御裁

一 五月廿九日

鍋島加賀守二病氣二月井上河内守殿御奉書

藤本立泉に可遣旨御目付大島周幡守

詰番戸田助太夫に御在渡り二月本番柴田三九郎組

御徒持系御處立泉他出二月先々御早々

差遣是々御法可御出旨藤本雲泉

御取書系河内守殿御退出二月四月村瀬

仔九郎に助太夫中達河内守殿御宅に右

御使御勤御徒由人系上右に御取次御

中上右之通日帳に記有之

一 六月二日

紅葉山

文昭院様

御霊屋

御近座

御供養二月

紅葉山

文昭院様

浄霊屋廻り番

代り

飯河善九郎組共

紫田三九郎

右深惟子上下明七時様

右 浄迁座之筈 浄名代并上届中当

浄供養之筈 浄名代土屋相摸当殿

惣奉行并上河内当殿共

同日

浄腰物拜領

井上河内当

右紅葉山

文昭院様 浄霊屋浄建立惣奉行共勤

二月廿下

一 六月三日

紅葉山

文昭院様 浄霊屋上三泉方浄系詣二月

浄霊屋廻り番 本多久五郎組共

右深惟子上下明五半時揃

一 六月四日 九月法書付四月付稲葉丹宮法古達

勝田元哲死去の間

公方様

月光院様為伺 沖機嫌高家元詰衆
諸番頭諸物頭亦可為登 城八時迄
孫成^中之明五日可為出仕^中

大久保長門守殿^中由^中稻葉多宮^中等
今日取急^中月立^中松^中登 城^中不及^中以候
同席^中江^中寄^中中^中傳^中松^中等^中

右日帳^中記有^中詰番吉田小右衛門也

一 六月五日

昨日^中書付^中為伺 沖機嫌諸役人
今日登 城有^中

一 六月十日

長谷川半四郎組^中

西尾典三^中

右法 仰付^中

一 六月十日

銀吹替所用^中勘定組頭^中人^中勘定方
三人^中從^中月付^中三人^中小^中人^中月付^中三人^中
仰付^中

一 六月十三日

不時法禮有之

時服十

戸田采女正

右紅葉山

文昭院様 浄霊屋 浄新建法寺傳

本勤中二月法下之

同日

金田惣八郎宇治帰 浄目見相濟

一 六月十五日

紅葉山法寺傳 本勤中二月戸田采女正家来

大勢法下物有之

一 六月十八日

為伺 浄機嫌法三家方法登 城有之

一 六月廿一日

日光准后同新宮法三家方上暑中
法尋上使法檀重法遣之

同日

井仔右馬督上間部越希弓殿浄奉書二而
暑中法尋法檀重法下之 浄奉書法使
本番林藤四郎組法徳勤之 法法来法月付

村瀬仔丸島江詰番江原典右島古渡

同日

未同人御奉書松平右近將監江可差也昔
未月付右同人江相渡本番藤四郎一組
持系以處是去膝氣^忌未尋江御奉書故
未法去越希与殿未宅江差遣去未使
未徒由人之内右近將監宅江御奉書持系
之者未法裁希与殿江持系取次江相渡
未^二下着去人未門希^二未侍居右未法
未渡中渡美届^レ版本未番^レ歸未届^レ

右日帳^二記有^レ

一七月朔日

御太刀備希長光
代金拾七枚
大坂江内殿
時服二十
内藤豊希与
御馬

右法下^レ

一七月三日

御誕生日^レ未祝儀未濟

一七月十日

文昭院様當十月
御法事惣奉行

阿部豊後守

常憲院様當十一月
御法事惣奉行

久世大和守

右法 仰付之

一 七月十一日

伏見奉行

寺社奉行

建部内近頭

右法 仰付之

右建部内近頭高寺万石也此
御時代迄寺貳万石之

無城之寺法奏者番寺不法
仰付此内近頭寺社奉行
斗也

一 七月十九日

文昭院様當十月御法事御用

松平對馬守

建部内近頭

中川淡路守

水野因幡守

常憲院様當十一月御法事御用

森川出羽守

土井山城守

仙石丹波守

仔勢仔勢守

右之通 今日法 仰付也

一 七月廿一日

女清沙殿書普法
法身傳法作付中

小笠原酒造之助
木下右馬作

一 七月廿八日

法先手江
西役料三百俵

法月付

山川安九郎

逸見八九書法

一 七月晦日 出西書付法月付九七五郎兵衛法古渡

覚

此間江戸表支不及中道中筋^米在^る追^及

錢の相場日々高直ニ成^米事今度金銀の
法沙汰中事起りゆ^る町人百姓ニ限ら^ず
錢と買入ゆ^るもの有^る故小^の由相聞ゆ
最初金銀の事法沙汰時一身の利潤を
謀^り免^る何事小^の其通用在^る滞^り
事^は仕出^るゆ^る小^のお^のる^る嚴科小行^を法
原^にゆ^る法 行出^る處^はい^ま新金銀
也上通行お^の無^い内^はお^の如^くの事出来^り
其罪科輕^らら^ず奉行中各其支配の
所^に嚴密^に穿^ぬ數^を遂^に禮錢の相場

高く賣出しゆの夫いふ小不及其故
なくしゆ過分の錢買求ゆらあり
おろそか召搦ゆ松小仕ら海邊くゆ武士方
諸辰中英其領所は茂急度其沙汰
有しゆ松小可法中觸ゆ以上

平七月

一 八月十五日

秋元但馬守殿死去二月明十六日諸番頭諸物頭
諸役人出仕居座ゆ昔鈴木仔兵法中軍ゆ
搦し刻限四ッ時之由ニ法ニ座ゆ

一 今日の唱物三日普法夫不苦ゆ由仔兵法中軍ゆ
此昔法組は江茂法本觸ゆ松ニ与本ゆ番組頭元
中渡ゆ

序香奠
銀貳百枚

上使水野監物

秋元仔賀書

右へ通法下しゆ
右へ通日帳ニ記有し

一 八月十八日

今度急向之公家衆法駛走法 仰付ゆ

勅使 仙石越前守 法皇使 島津淡路守
女院使 六郷伊賀守 梶井山跡 鍋島甲斐守
代り 亀井德俊守 代り 秋月山城守

一 八月廿四日

當十月廿四日於増上寺

文昭院様 淨法事之節勤番

山門 松平遠江守 表門 松平仔豆守

裏門 本多遠江守 本堂裏口 内藤山城守

右之通法 仰付也

一 八月廿五日

侍從法 仰付也 久世大和守

一 八月晦日

法書付大久保甚右衛門仙波七郎九郎 法為見也
急度未觸也筋二五支無一由

覚

先以法 仰出也とく上金銀吹出也礼
引替所小相いへ取引替也由いへ
武家方不在聞也武家方へ引替并
為替亦無一依へ由替所共引替取也不
通用無一由小中先以如法 仰出也共

法沙法之事天下後之代追之為之也
以之世上二おし一聊哉損失不可有之也
處也法金儀之上
公儀法費用也右不法顧ゆ之也
作出中事二町一在二而一通用二おし一
所小若武士方通用未滞ゆ也以之事之
難法出来ゆ二おし一不可然事ゆ
最初法 仰出ゆ昔能二法一心得引 替
為替亦無滞可法中付ゆ以上

平八月

一九月六日

法老中

所司代侍従

若年寄

寺社奉行

法奏者番

大法番頭

法書院番頭

監物殿事

松平紀伊守殿

戸田山城守殿

水野和泉守殿

森川出羽守殿

石川近江守殿

松平仔豆守殿

牧野讃岐守殿

土井豊前守殿

本多至水

縮葉駿河守法

右法 仰付之

山城寺殿事

大久保佐渡寺殿

右名所改法成中

屋敷替

大久保加賀寺屋敷

井上河内寺殿

秋元仔賀寺屋鋪

阿部豊後寺殿

加藤和泉寺屋敷

水野和泉寺殿

戸田山城寺殿屋鋪

秋元仔賀寺

井上河内寺殿屋敷

松平紀仔寺殿

阿部豊後寺殿屋敷

戸田山城寺殿

水野和泉寺殿屋敷

森川出羽寺殿

松平伯耆寺屋敷

大久保加賀寺

松平紀仔寺殿屋敷

加藤和泉寺

所用屋敷
本月證法寺右三軒
中根五次郎

松平伯耆寺

右之通法 仰付之

一 九月十五日

来月於増上寺法事二月法書付出

一 九月十六日

森川出羽寺殿代

石川近江寺

右増上寺法事所用法

仰付中

一 九月十八日

當十一月上野

常憲院様法事之常所之勤番法
仰付之

一 九月十九日

明後廿一日根津法祭禮ニ付以役當以書付
大長門寺殿法渡法成

九月廿一日

神樂

所跡押

助吉田小右衛門

高田忠右衛門組

助林藤四郎

菅沼圖書組

代り

柴田三九郎

上覽所左右
津若置

江原典右衛門組

同所

明比法番

春日内藏助組共

長谷川半四郎組共

一 九月廿日

明廿一日根津法祭禮在延由大長門寺殿
法仰渡中依之来廿二日廿三日非番差出之

但右紀番書去十九日出中振合二月首畧之

一 九月廿二日

根津津祭禮二月法役當法組之服釋
未改廢斗月上下二日出勤

一 九月廿七日

於當十月増上寺 十一月上野法法事二月
法書付三通出

一 九月廿八日

當十一月上野法法事二月法書付出

一 十月十六日

公家元法馳走法能古濟

一 十月十八日

公家衆 御對顔相濟

一 十月十九日

来日月日光法事
御用法仰付

石川近江守

一 十一月十二日

公家元法馳走法能古濟

一 十一月十三日

公家衆登 城 御返答古濟

一 十一月十七日

来未年日光法法事御用檄大名衆

高家其外諸役人小役人等 仰付之

十一月十八日

法使番

木下清兵衛

法月舟江

法花頭

戸田庄右衛門

右之通法 仰付之

十一月廿六日

痘瘡 麻疹 疹水痘之儀 法書付出

十一月廿八日

尾張中將殿宰相^二任官法 仰出^レ

十一月廿九日

来月二日三日四日非番書差出^レ松法月付

稻葉多宮法中^レ開^レ付^レ琉球人登

城之御用向^二法^レ部^レ与^レ兼^レ中^レ處^レ其通^レる^レ法^レ部^レ之^レ音

法中^レ開^レ付^レ

同日

松平薩摩守

正四位下法 仰付^レ中^レ若^レ琉球人来月二日致

登 城^レ中^レ松^レ与^レ法^レ部^レ渡^レ付^レ

同日大名保佐渡守殿致成山渡巾書付武通

武徳寺組

明後朔日琉球人献上物二月四年時

沛城江孫出運巾松二可致致巾

武徳寺組

来月二日琉球人登城二月松平薩摩守

芝之屋敷幸橋之屋鋪迄

武徳寺組

幸橋之屋敷大平迄

右之通登城之道警汚巾松二可致致巾

十一月晦日

来未年日光法法事二月公家元法駛迄

大名衆法仰付之

十二月朔日

夜琉球人松平薩摩守屋鋪上屋敷迄

四ツ時系巾付道番法徳二組差出巾松二可致致巾

鈴木仔兵站巾聞巾

道番割

寺番

長谷川半四郎組

松平薩摩守芝屋敷分將監橋元門本

増上寺表門迄

貳番

建部表表門但共

増上寺表門前々通町芝口表門表堀端

幸橋表門松平薩摩守上屋鋪迄

右之通古當山表組之廢半目上下之暮六時

場所 表表掃巾松中巻巾以及半四郡及甚古馬屋

古觸巾巾

同日

明日琉球人出仕三付諸役人装束三登

城掃刻限五半時之由表目付元張中巻巾

道番割

寺番

本多久五郎組共

松平薩摩守上屋敷之松平丹後守屋敷系

櫻田法用屋鋪系上松民部大捕屋敷

系之外櫻田法門井上河内守屋敷系迄

貳番

諏訪兵部組共

井上河内守屋敷前々間部裁系守屋敷系

和田倉法門之松平紀仔守屋敷系腰拭裏通

大手迄

退出之幕道番割

壹番

諏訪兵部組共

大手腰拭裏通松平紀仔吉屋敷竜之口
也よまのり一日比呂門内迄

貳番

本多久五郎組共

日比谷門方松平丹後吉屋敷糸夫少重
松平薩摩吉幸橋^{屋敷}迄

右内組^は五半時場不^は

法本揃^は松^二中^一遣^は

三番

金田惣八郎組共

松平薩摩吉上屋敷^は幸橋門内堀端

芝口法門^は通所増上寺表門迄

四番

江原典右馬組共

増上寺表門^は將監橋片門前芝

松平薩摩吉下屋敷迄

右内組^は五半時場不^は

法本揃^は松^二中^一遣^は

一明日本内番組加^は番組^は供番組^は助^は供番組

慶永^は月上下^は例刻出勤^は松^二法本觸^一音

本内番共頭衆^は中^一渡^は

右^は通日帳^二記有^一

同日

沛代晉禮祝儀琉球人献上物

- 一沛太刀 一腰 一沛馬 壹足
- 一黑羅紗 十间 一萌黃羅紗 拾间
- 一大平布 百疋 一薄蕉布 五拾端
- 一壽帶仙香 三拾 一久目綿 百把
- 一白緒綿細 五拾卷 一島蕉布 五拾端
- 一畦蕉布 五拾端 一壽餅 二箱
- 一竜池香 二箱 一泡盛 十壺
- 一青貝硯屏 二 一青貝中央卓 貳

一青貝籠 貳

沛代晉禮中山王使者與郡城王子自命献上

- 一島蕉布 二拾端 一大平布 貳拾疋
- 一大宦香 壹箱 一壽帶仙香 十
- 一泡盛 二

中山王繼目二献上

- 一沛太刀 一大平布 百疋
- 一薄蕉布 五拾端 一芭蕉布 五拾端
- 一久目綿 百把 一銀 五十枚

- 一 壽岩人取 二
- 一 沉金中央卓 二
- 一 泡盛 五壺
- 中山王繹月二付使者 金武王子自旁献上
- 一 芭蕉布 拾端
- 一 島蕉布 十端
- 一 大官香 五箱
- 一 壽帶仙香 五ツ
- 一 泡盛 五壺

一 十二月二日

今日琉球人登 城法禮古跡中
同日 大久保佐渡守殿法成所渡中書付

法徒 四組

明後四日琉球人登 城三付松平薩摩守
芝之屋敷に大手迄如法禮之時警務中松
可致致中道筋之儀去鈴木仔兵務稻葉
丹宮可致談中
十二月二日

布衣以上
法役人
同
寄 合
法平法眼醫者

明後四日琉球人音樂法 仰付_中間將衣
布衣着用法印法眼去裝束_{五半時} 查
城_中松_二可_三法_中古_中達_中

一 十二月三日

明日琉球人於殿上之間係料理法_中付
手長入_中中_中間差出_中松鈴木仔兵_中中_中安_中付
不時犯番之順_中以_中古_中當_中中_中

殿上之間

手長役

春日内藏助組共

係組_中古_中明六半時廢斗月上下_二五

沛城_中法相揃_中中_中松_二中_三遣_中中_中内藏助_中後_中
以別紙古觸_中中_中

道番割

寺番

高田忠右衛門組

松平薩摩古芝屋鋪古將監橋元門前
増上寺表門迄

武番

菅沼宗書組共

増上寺表門_中古_中通_中町_中芝_中口_中法_中門_中法_中掘_中端
幸橋_中法_中門_中松_中平_中薩_中摩_中古_中上_中屋_中敷_中迄

三番

吉田小右衛門組共

松平薩摩守屋敷希松平丹後守屋敷希
日比谷清門迄

四番

中山至水組共

日比谷清門の八代洲河岸竜口松平
紀伊守屋敷希腰掛裏通の大手迄
右の通古當中の琉球人明六の時薩摩守
芝の屋敷出宅の道番組に天明七半時
慶年月上下の面を場所に法を採り松
中へ進め乃番の法方右の通法の出勤
可致成中且退出の第道筋及右の通の座中

一明日本加法供番助法供番組慶年月上下の
出勤法後中松本法番組既元中渡中
十二月四日

琉球人五半時登城大廣間於法撮類
五日樂法 仰付八の時希古濟中中

一殿上之間子長春日内藏助組共古勤の處同席に
孫出の中目付元何也及将衣着用法中の中由
兼の間内藏助及将衣着用の然存の中二付本林
出羽守殿に古伺中の中處其通に可仕昔法仰渡の中
則法納戸の法取内藏助及将衣着用の勤法殿

同日 森出羽守殿に渡り成り申書付

法徒 寺組

明後六日琉球人長下中物有之申間麻上下
着之運ハ松可法後也

十二月四日

法徒 四組

明後六日琉球人登 城二付如以間警言湯ハ松可
後ハ石筋之儀支 鈴木仔兵衛稻葉多高上可法後也

十二月四日

一 十二月五日

明六日琉球人長取法下中二付諸役人装束ニ登
城搦之刻限明五半時之由申月付鈴木仔兵

法中開中

一 琉球人法下物有之申二付柳之間方手長
寺組差出中松昨日詰法番惣八郎及上
本林出羽守殿に法書付法仰渡中二付不時
犯番之煩ヲ以申當申中

柳之間手長

土屋敷馬組共

法組に去明五ツ時希廢斗月上下
市城に法寺搦中松申遣也

道番割

壹番

金田惣八郎組共

松平薩摩守芝屋舗分將監橋片門前
増上寺表門迄

貳番

飯河善九郎差込

明子組

増上寺表門弟分通町芝口法門迄

三番

江原典右衛門組共

芝口法門分敷寄屋橋法門内松野寺波寄
法後屋敷後通松平土佐守屋舗迄

四番

江原典右衛門差込

水田弥九郎組

松平土佐守屋敷分本多中勢大輔屋敷弟分
土屋相摸守屋舗前松平紀仔守屋敷弟
腰拭裏通大手迄

右法組之明六の時廣平月上下二方面之場不
法本揃中松中一遣中

一道番之法方中入中退出之乃筋哉右之通
之由法屋の間在松法心得可法成中則
鈴木仔兵為見法中書付写拭法月
一敷馬及中入中明日哉同席之元将衣
着用法鼓中二付貴松之哉将衣之儀大

佐渡守殿江相同の處着用可法成由法
仰渡中二月明日法法取法成中松正納戸既元
中終置中

一明日本加法供番法先番組助法供番組
之通廢本月上下二為例刻出勤中松本以番
与既元江中一渡中

十二月六日

由使松平薩摩守芝之屋舖分増上寺表門通
吏分通町江出芝口法門分數寄屋橋法門
松野是波守法役屋敷後通一松平土佐守

本多中勢大捕屋敷糸腰拭裏通大分法門分
登城

右之通日帳ニ記有之

一十二月六日

琉球人登城法暇古海中中法下物有之

琉球人法下物

一銀五百枚 一綿五百把 一金襦袢拾卷

右若輪 市代替中山王江法下中

一銀五百枚 一羽二重紅百疋 一八丈織 五拾端

右若中山王結月ニ付法下中

一銀貳百枚 一時服十宛

右者兩使上沙下巾

一銀三百枚

由使

從者惣中上沙下巾

一時服三宛

音樂勤巾者

拾六人上沙下巾

正使

與那城王子シヌク

副使

知倉親方

替儀官

南風平親雲上ハユハレ

掌翰使

宮里親雲上

圍使

真喜屋親雲上

使替

渡具知親雲上トグナ

使替

兩間親雲上

使替

運天親雲上

副使使替

仔禮親雲上

正使

金武王子キニ

副使

勝連親方カト

替儀官

喜瀨親雲上

掌翰使

砂邊親雲上

使替

高山親雲上

使替

安里親雲上

使替

木森山親雲上

副使使替

島袋親雲上

右中山王縹月之人數

樂正 王城親雲上 野原親雲上

樂師 仔江大城親雲上 本都親雲上

同 安慶田親雲上 同 仔佐親雲上

同 永山親雲上

樂童子 濱川里之子 同 手登根里之子

同 久志里之子 同 仔榮茂里之子

同 祢霸里之子 同 稻嶺里之子

同 喜屋武里之子 同 仔野波里之子

樂工貳拾六人

一 十二月八日

明九日上野

清宮江琉珠人系詣二月法番可差遣者

森川出羽守殿法書付ヲ以法伴渡ル琉珠人

松平薩摩守芝屋敷明六ツ時出足之由

法月付稻葉多宮法中開ル

上野

清宮廻法番

春日内藏助組共

法組江去服禪衣改明六ツ時廢斗目上下ニ至

法役所江法本搦ル松中巻ル

一 明日井橋内門之内江卷式組差出中首
大之保佐渡書付江以法作渡中内江
之儀二月頭裏附上下組羽織袴二可致
出勤昔勿論 市前置入中右場所
可引 渡昔中月付元法中中江今中日
法膳場三九中中江也中

竹橋内門内也

高田忠右衛門組共
戸田助太夫組共

右法組江支羽織袴二五明六中時井橋内門江
内江法古中松中也中

一月藏助及中入中明日上野

市宮江中根半十佐二木五郎右中法系中先格
之通布衣法着用可法成中止又琉球人也二
市宮江系詣夫中法本坊江系中由法中屋中
市宮系詣中法中早速法番中揚中松中猶又
法先二初中為中法中月付元法中開合可法成中

道番割

中山主水組共

寺番
松平薩摩守芝之屋敷中將監橋内門前
増上寺表門系中源助橋造

武番

中山至水差原

菅沼宗書組

源助橋方芝口法門系法堀端幸橋

薩摩吉屋敷服吉山由系吉屋敷系追

三番

吉田小右衛門組共

吉山由系吉屋敷服吉山由系吉屋敷系

永井由後吉屋敷系井仔由中吉屋敷系

半藏法門追

四番

柴田三九郎組共

州橋法門外方平川口系戸田山城吉屋敷系

土手際松平右京大夫屋敷系神田橋

御用屋敷追

宗田三九郎差原

永田弥九郎組

御用屋敷次方昌平橋神田明神前

本郷三町目追

六番

土屋敷馬組共

本郷三町目横町方近藤登之助屋敷系

天澤寺系天神切通之下谷池之端由頼町

仁王門追

上野方

帰道番割

七番

土屋敷馬組共

上野仁王門外廣小路小笠原右近將監屋敷
弟々本多信濃守屋敷弟助達橋迄

武番

永田弥九郎組

筋違橋内々通町通白銀町土手迄

三番

柴田三九郎組

白銀町土手々中橋迄

四番

吉田小右衛門組共

中橋次々芝口内門迄

五番

菅沼宗書組

芝口内門外々増上寺表門迄

六番

中山至水組共

増上寺表門弟々内門弟所將監橋

薩摩守芝屋敷迄

右々盛一電ナ以ナ極中ナ内ナ組ナ江々ナ慶丰目

上下ニ明半時面々場所江江ナ相ナ様ナ松

中ナ卷ナ

別啓

中橋内門内々儀大概祭禮
上覽之節之通之由古刻限々早々出勤

可法成中

同日 大久保佐渡守殿 森川出羽守殿 佐渡法成中 内書付

十二月八日

法從 武組

明九日 琉球人東叡山

御宮 上系詣 二付 竹橋之内 上孫出 鈴木
仔兵衛 稻葉多宮 上在 詔可法勤中

十二月八日

明九日 琉球人東叡山

御宮 上系詣 二付 中

法從 頭 寺人組 大

御宮 廻勤 番可法致中

法從 六組

松平薩摩守 芝之屋敷 上東叡山 追道 筋
敬言 湯中 松可法致中 后 筋之儀 大 鈴木 仔兵衛
稻葉 丹宮 上可法 兼合中

十二月八日

琉球人 上野系 詣道 筋

松平薩摩守 芝屋鋪 上將 監橋 凡門 希 増上寺
表門 希 上通町 上出 芝口 凡門 希 上 堀端

幸橋法門入薩摩寺屋敷脇吉山佛前寺
屋敷糸服松平安齋寺屋敷糸永井佛後寺
屋舖糸井仔佛中寺屋敷糸半藏法門入
巾橋法門出平川口糸戸田山城寺屋敷糸
土手際松平右京大夫屋敷糸神田橋出法用
屋敷糸昌平橋出神田明神糸本郷出
同三町目横町近藤登之助屋敷糸天澤寺
糸天神切通下谷池之端西頼町糸仁王門
院殊人上野歸道

仁王門分廣小路上出小笠原右近將監屋敷糸

本多信濃寺屋敷糸筋違橋法門入通町
芝口法門出増上寺表門糸片門前所
將監橋薩摩寺下屋敷

右之通日帳記有之

一 十二月九日

月光院様

法廣敷添番

永田弥九郎組

矢島源七郎

右法 仰付之

一 十二月十四日

来二月於上野

淨光院様七回所忌法事所用掛寺祇奉行
法苗守居所勤定奉行其外勤番大名法
仰付

同日

来二月於傳通院

天樹院様五拾回所忌法事所用掛寺祇奉行
法苗守居所勤定奉行勤番元共法

仰付

一 十二月廿一日 此月内村康仔宛山岡助右馬頭為見の書付

新銭出来の来廿二日、吳服町是所月

吳服郎會所ニ賣出願く武家所方
望次賣渡の苦ニ但當年餘日有
銭數多々出来合不中付小形金是
是而迫之間也可賣渡の金之事
又夫小形金勝手次第用ひら
數願く
との也

十二月

法苑方萬年記卷之貳拾叁

正德五乙未年

一 三月中諸法規式如例年相濟

一 三月七日

明八日

殿中裏附上下之由法月付鈴木伴兵物語

法後

一 三月十日

法先手

高藤治左衛門

法院頭

戸田助太夫

法苑頭上

中奥番

高五百石
法役料三百俵

朝岡 鞆 員 方喬

戸田 庄右衛門

法苑頭上

稻葉 卜野 吉組

高五百石
法役料三百俵

小笠原 平兵衛 常春

戸田 助太史 治

右法 作付之 此外法役 暫有之 省略之

一 正月十五日

去ル三日之夜法 謡初之時法書院 以番不之
角ニ鼓之 杖聲 仕レ者有之 其所ニ並居中

輩 座也 立退中處 法苑 目付 組頭 系リ合
彼者 浅クトク一中惣一之

殿中 所レ之 法番 所有之 儀 夫如此 非常也
可法 禁法 為ニ中 處 法番 衆 其多ニ仕 差ニ通中
事 法番 本意 心附 無ク仕 合ニ自 今
以後 番頭 組頭 法中 合中何 事ニトク法
是等 之 非常 之 為 之 時 法番 所 之 勤 方
未 立 中 松 法 中 合 法 番 衆 宜 出 可 法
中 渡 巾 以上

正月

右之通法書付申以於中之間并上河内各殿
法仰渡也

右日帳ニ記有之

一 正月廿七日

山岡助右物語法後山大明寺八日日本所
亀井戸錢座多錢為賣申由來月々
賣日夫未不申在知也

右之役急度申受多無之昔法申也

一 二月朔日

日光淨法事法用二月法系中衆中法切采

法杖持方張紙出

覺

一 今度於日光淨法事二月彼地_{江法卷申面}

當未度法借采法役料只今法下申間

當月十一日十三日追池田新兵衛系系勤兵衛

裏判取之采法取儀支同十四日より廿日追

可限之但采高半分金子可相渡之

申法之儀支百俵ニ付金七拾貳兩之積り

多御座起事

一 貳百俵為余以下共無差別右日限之内

可本渡事

一如例年五月二至^レ法借米可法取与存^レ面^レ可為心次^レ事

未二月

右日帳^二記有^レ

一二月四日

淨光院様沙七回忌子部^レ法^レ法事明五日^レ来^レ八日^レ追^レ上野^レ於^レ法^レ所^二有^レ

一二月十七日

家督後相改

井仔^中書

直惟

右来^レ四月日光為^レ淨名代^レ法^レ遣^レ寺

若年寄衆

鳥居仔^賀書

忠英

法側衆

青山^備前^書

幸和

右来^レ四月日光沙法^レ事^レ中^レ為

上使可^レ法^レ遣^レ寺^レ仰^レ渡^レ寺

一二月十八日

法奏者番
寺社奉行

井上^遠江^書

右迄 仰付之

一 三月四日

加役博奕改

法先子

堀田源右丞

右迄 仰付之

一 三月九日

法三家法登

城真江法通 米溜誥元

清目見有之

一 三月十日

法側元江

大西番元

阿部志摩守

右迄 仰付之

一 三月十五日

金三枚

法先子

諏訪兵部

時服式ツ

右宇治法暇ニ付法下之

一 三月廿一日

幸橋屋敷与
神田橋屋鋪
入替法 仰付

酒井元忠
松平甲斐守

一 三月廿四日

時服式ツ羽織元

同

高田忠右丞
吉田小右衛門

法先子

右日光法眼二月法下之

高田忠右馬組子頭

加藤興八郎

金三亩宛

松本利右馬

金三亩宛

小澤仔兵衛

吉田小右馬組子頭

栗山六郎兵衛

右今度日光法眼二月於燒火之間

法下之

高田忠右馬組内從

銀三枚宛

拾三人

吉田小右馬組内從

銀三枚宛

拾三人

右今度日光法眼二月於燒火之間忠右馬

小右馬於宅銀子法眼衆上右度之

一 三月廿五日

時服十羽織
法加羅馬

法光中

井上河内守

右日光法眼二月拜領之

一 四月五日

清黒書院

清祿号清守 本氏池田

法下侍從法
作付法五法下之

松平茂十郎

清祿号清一守

法下侍從法
作付法五法下之

島津又三郎

清腰物拜領
宗則代七百貫

清腰物拜領
包永代七百貫

宦位之侍禮

真侍太刀
估希師光
代金六枚
時服或十
銀三百枚

茂十郎幸

松平大炊頭

結政

真侍太刀
一文字重真
代金拾枚
時服或十
銀三百枚

又三郎幸

松平大隅守

結豐

侍元服之侍禮

綿或百把
金馬代

松平薩摩守

一
四月九日

右神田橋上屋敷法
石上舊地溪所牧野
備後守上々屋鋪法下々

松平刑部少輔

同日

日光上法女中模方分
浦名代法服之元
都合六人有之

一
四月十一日

日光江法服

法馬法下々

井仔橋中守

法任少將掃部頭与可未改音法
仰渡々

一 四月廿三日

於 沛屋之間日光帰リ
沛目見

吉岡一文字
沛刀
代金三十枚

井上河内守

右日光法事法用本勤_レ付_二拜領_一

同日

當未_レ復_レ法借米法張紙出_ル

覚

一 當未_レ復_レ法借米法役料高貳百俵
以下_レ支_レ四月廿七日_レ五月八日迄池田新兵衛
系原勤兵衛裏判取_レ法取_レ儀_支五月
九日_レ六月九日迄可限_レ高_米半_分金子_二
可_レ下_レ之_レ支_レ儀_支百俵_二月_二八拾_五兩_一
積_リ為_レ法_原交_レ事

一 四月廿五日

覚

新金_銀追日世上小流布——通用_レ其中
東國筋_支金通用の事_二此_レ處_レ小新金

いさゝ諸國在り小由交渡らば其上
只今迄是ひ別り故小多分々小形金銭
以て通用し次第々萬事に就て少少
損徳多し多免の由沙汰^ニ由るは觸書
之昔と本守新古^金此撰ひあくる用也
厚き事ニ由處小形金半此通用し
あこり^ニ事と遠國之者共其子細と
不在心得り故と相見り間村之の各主鑑取^ニ
いふ小不及りた大小之百姓共又々諸商人^共
以昔と本守^ニ由り元録金小形金共小合

次第小新金小引替りて通用せし事
一此度江戸町中^ニ諸國在り高賣物元
請^上之問屋共^ニ町奉行所^ニ本觸^上例
元録以来之金銀々集り次第^ニ引替^上
差出新金小引替り仕^上荷^上主^上方^上之
新金銀通用し次第^ニ少少損失^上無^上
子細^上或^上遠高賣物^上之代^上々^上一^上新
金銀^上之^上本渡^上由^上法^上中^上渡^上間^上諸國^上在^上
大小^上之^上百姓^上共^上若^上諸^上高^上賣^上人^上其^上昔^上或^上
之^上由^上厚^上之^上事^上

一諸國在るにわろく諸高賣物之代又夫
小判一切賃亦と始く何事小より新
古金銀割増御定に外にわろくお
新金銀より後直後差加一に元録金
小形金と多く一に引替る者有るに
わろく後日小本軍の元當人之事
不及言名主組改定曲事の流沙法
有る事一に間一村限り小大小に百姓
商賣人^諸追及能く其昔と可わろく
此度流料所流代官に本觸の書付馬

相達の中領にわろくおは昔と以流中流中
阿部豊後守殿流作流の間如此に以上
四月
丸毛五郎兵衛
稻生次郎九郎

一四月廿八日

日光歸る衆 御目見
御黒書院

- 柳原式部大輔
- 石川近江守
- 松平大隅守
- 松平對馬守
- 牧野因幡守
- 植村右馬佐

井仔兵部少輔
九鬼丹後守

金森出雲守

勝手

織田能登守

中條對馬守

横瀬駿河守

横田備中守

大久保大隅守

曲淵信濃守

加藤右近

天野弥五右衛門

渡邊外記

三島清左衛門

高田忠右衛門

吉田小右衛門

飯田惣左衛門

武島左門

一 四月廿九日

鉄炮洲之
屋敷

酒井修理大夫

神田橋
屋鋪

松平右京大夫

名代

酒井内記

右屋敷入替

仰付

松平刑部少輔神田橋
上ヶ屋敷

神原式部大輔

同日

赤林川出羽守殿

津城内江供

召連江足輕主人退出江幕先江駐拔江乘

下馬江退出呼中江其上江不作法江有江

弟₃右之₁後無₁事₂中₁間向後₂無₁松
心得可₁中₁旨一₁昨₁廿七日鈴木₁仔兵₁平岡₁市右
向₃江₁法₁中₁由₁猶又₁右之₁後₁坐₁心₁泊₁中₁松₂
今日₁法₁月₁付₁戶₁田₁庄₁右₁法₁中₁軍₁中₁以上
右₁法₁從₁法₁番₁所₁日₁帳₂記₁有₁

一 五月朔日

公家₁元₁法₁駛₁走₁法₁能₁有₁

御₁弟₁置₁法₁給₁任₁法₁予₁長₁為₁以₁役₁當₁例₁之₁如₁

日光法₁法₁事₂付₁与₁系₁向₁之₁公₁家₁元₁也

一 五月三日

久₁松₁備₁後₁書₁ 牧₁野₁能₁登₁書₁ 近₁藤₁差₁九₁郎

三₁好₁助₁次₁郎 神₁原₁万₁五₁郎 安₁藤₁頼₁母

右₁之₁通₁屋₁敷₁古₁對₁替₁法₁ 仰₁付₁

一 五月五日

今日₁端₁午₁之₁出₁仕₁為₁之₁中₁此₁度₁之₁法₁表₁江₁法₁為₁

成₁中₁兩₁濕₁之₁第₁故₁法₁老₁中₁法₁作₁上₁今日₁之₁

法₁表₁江₁法₁不₁法₁抱₁ 出₁法₁中₁法₁三₁家₁方₁之₁大₁奧₁江₁

法₁通₁ 御₁對₁顔₁為₁之₁中₁昔₁於₁席₁之₁法₁老₁中₁

法₁達₁松₁紀₁仔₁書₁殿₁法₁仰₁聞₁

一 五月七日

今日由門跡方由駛走之由能為之

公家元法能之由之通法役當不古達無一記不記

淨系置若法給仕由手長等如例

一 五月九日

上野増上寺

淨靈屋江公家元系詣二付

元頼院法役當有之

高巖院様 淨靈屋上女久杖及斗系詣二由

一 五月十日

於日光 淨法會古濟中二付法能為之三万石

以上布衣以上之由役人見物法

仰付之

淨白書院

饗應奉行

貳組斤頼院

紅葉之間

郷食應奉行

壹組斤頼

抑之間

郷食應奉行

貳組斤頼院

惣法振廻奉行

右同斷

芝居折櫃出役

貳組

淨系至

三十人

拾万石以上折獻上有之二付

手長 貳組

一 五月十日

昨日法能見物法 仰付_レ為法禮万石
以上登 城_ノ之

沛座之間

法馬法_下

日光法_暇

紀仔中納言殿

上使之世大和_古

青蓮院沛門跡_上

上使法同人

妙法院沛門跡_上

上使阿部豊後_古

六條沛門跡_上

銀子牧

同 新

銀三百枚
綿貳百把

一 五月廿日

日光准后沛方法願之通法隱居大明院与
法改新宮_上沛職勢法 作出_上

上使

松平紀仔_古

一 五月廿二日

此記仔殿_古
有德院法沛事也

紀仔中納言殿

後日光法沛府_二月法登 城_ノ之

一 五月廿七日

同日夜五_ノ時_レ法雷_二月法老中_一方法支配方
法登 城五時_レ法退出法成_上

一 六月朔日

今日月並に出仕有^レ席^ニ上^リ居^ル老中
出座 御機嫌能^ク御座^リ座^ノ中
一昨日御表^ニ御座^リ座^ノ中 出御^ニ付^テ暑氣^ニ御座^リ
為御養生不^レ御座^リ座^ノ中 出御^ニ付^テ三家方^ニ交^ル
於 御座^ニ間 御目見^ニ付^テ由^リ戸田
山城守殿^ニ御座^リ座^ノ中

一 六月五日

日光御門跡^ニ御座^リ座^ノ中 登^ル城^ニ御座^リ座^ノ中
御目見^ニ付^テ由^リ戸田
日光^ニ御座^リ座^ノ中

一 六月十一日

尾張宰相殿
日光^ニ御座^リ座^ノ中

一 六月廿二日

尾張殿日光^ニ御座^リ座^ノ中 今日^ニ御座^リ座^ノ中
城^ニ御座^リ座^ノ中 御目見^ニ付^テ由^リ戸田
尾張宰相殿

御禮衆之内

時服十
金拾枚

尾州侯^ニ御座^リ座^ノ中
家督^ニ御座^リ座^ノ中

松平日向守

義孝

時服五
金馬代

隱居ノ内礼

松平掃清書

義行

沛刀来國光代金三拾枚

一位様江

古今和歌集近湯関白大政大臣尚道公筆

月光院様江

僻案抄為家筆

宇治帰

諏訪兵部

右 沛月見古海

一 七月朔日

月次出仕有ノ内處暑氣自分ニ也ノ間
為沛養生不レ怠 出沛ノ内三家方江夫
於 沛座ノ間 沛對顔有ノ由ノ老中
法列座ニ於席ニ法作度

一 沛誕生法祝儀之日向後七月四日
成ノ間法務出ノ面ニ江可法古觸首大久保
佐渡書殿法作度ノ由法月付木下法兵務
法中軍ノ

右法從法番所日帳ニ記有ノ

尾張宰相殿

近衛基隆政殿

末島女

右法願之通縁組法 仰出中昔法家老
中腰之波也阿部能登也中列座
法仰度之

一 七月五日 法書付出

法院頭

来亦九日

順性院校三拾三回法忌之付法事中

浅草^幸染籠寺に法組免替可有勤番也

七月五日

一 七月六日 法書付出

公事訴訟あり者共奉行役人中若
其家来し来るといふ内縁法未め
音物成相贈り儀制禁あり違犯
輩小至る多と一理運の公事其冒
阿法訴訟といふ共一切許容を願ふに
若亦裁評の年月とさき未定り
言と也急度其沙汰及も礼罪科小

行在法座交者也
右今度如此法 仰出中間少路
志心得願く以上

七月

一 七月十日

金地院先住五長老

右贈禪師號法 仰付之

一 七月廿五日

今日廿九日迄於幸龍寺法事
法事法番一組死虫勤志法取物業

法贈亦法下儀由山三法事
第一通

但看坊幸龍寺中大系院之由

新居仔織組

法徒組

大岩勤兵衛

横田典四右馬頭

右法 仰付之

一 七月廿九日

幸龍寺

順性院校 濟靈屋

一 八月四日
濟名代有之書法法事 尾番分勤ル

上使寺多淡路書

尾張殿

一 八月五日
右者松平抄津書昨夜死去二月為法悔
張遣一

上使三浦寺波書

松平日向書

一 八月十五日
右者抄津書死去二月為法香奠下
右尾張寺波流
義孝

法禮元之内

濟刀佛系國義影 遺物

藤堂備系書

代金貳拾枚

一位様上

和漢朗詠集二條家為重筆

代金拾五枚

右同人

月光院様上

古今和歌集德大寺公胤筆

代金拾枚

一 九月六日

法禮之哀有之

公方様 濟不縁法收然 濟表上

出沛法提以依之明七日惣出仕之

一右之付法祝儀中上之儀二付法書付也

一 九月十五日

月次之礼儀

一今日明神祭禮有之付 上段見所

沛希置式組法同所明キ此の番是組
法役當有之

一 九月十九日

みろの冬附制禁之儀二付法書付也

一 九月廿二日

為伺 沛機嫌法三家方法登

城於真 沛目見法座由兼之

右法從法番所日帳ニ記有之

一 九月廿八日

沛禮衆之内

沛刀豊後行平

代金百五拾枚

沛掛物三幅對

佐竹大膳大夫

遺物

中達磨 顔輝筆

左右芦鷹 牧溪筆

一位様江

沛屏風
源氏
土佐筆

月光院様江

和漢朗詠集
慶運
由筆

沛刀吉岡助包

代金五百貫

加藤遠江守

遺物

一位様江

新古今和歌集
花鳥井雅俊筆

代金拾五枚

月光院様

仔勢物語
二條家為忠朝臣筆

代金拾枚

一 九月廿九日

今日惣出仕有之

法皇姫宮今度

沛基様 = 沛入樂之儀也 作出之旨

法老中方間部越希古殿本多中勢大補殿

於席之註作渡之

一 十月五日

阿部豊後守

此度 沛入樂沛用註 作付来年

京都江可註 遣由註作渡之

一 十月七日

上野増上寺 浄靈屋上 松茸乾

浄進献松紀仔与殿与 浄奉書出使出上

一 十月十六日 法書付出上

八十之宮様

右之通可奉唱上

一 十月廿一日

酒造減高之儀二付法書付出上

一 十月廿三日

金田惣八郎組法徒二成上元松希仔豆与组

岡田権次郎法藏法證文下

金田惣八郎組法徒二成

元松希仔豆与组

岡田権次郎

右只今迄七人扶持取来上處今度惣八郎組

法徒明上法入人二成並之通七拾俵五人扶持

法下中間法切采上當冬之分上法扶持方去

從當十月分上法後來申年上七拾俵

五人扶持之積可上法後來上但取来七人扶持上

當十月分の上りの間法取の支可為返納の
右控次郎支法譜代者ニ由糸内從退の
第支元之通七人扶持ニ成中間可法得
其意以上

正徳五年十月廿三日 出羽 平

佐渡 平

長門 平

仔賀 平

池田新兵衛
系原勘兵衛

右鳥仔賀支殿法渡本法番内從内藏
持系之

一 十月廿五日

一位様

月光院様法為 帝心附法老中方
若年寄元法泊 帝免之旨上田新四
物語法中
右法從法番所日帳ニ記有之

右内泊 帝免無之内支是迄日之法老若年
若人免内泊之由事

同日

大久保佐渡守

市入樂法用法 仰付之

一 十一月十日

上使井上河内守

武府三種

紀伊中納言殿

綿武百把
武為三種

德川長福殿

上使同人

右長福殿市袴着二付法進之中納言殿
為法禮法登 城名之

右法從法番所日帳二記有之

一 十一月廿一日 法書付

近年以来養子之事縁組之事又其
市奉公之法 召出之事二付之親類續之儀
中上小至之令以之外二助月達以之是
有之故先 市代市條目二此事也
載之是也とい一其後其度之及以
未達之事有之不可然也自今以後
支配有之面之其能之入念可法遂詮議中
事以上猶又如初之事出来也二初之
事之終より支配頭之面之越度之
法沙汰可有之也間其旨可法其以上

未十一月

一 十一月廿八日

月並出仕多之寒冷之節ニ由故清表
出沛不法遊中昔於席之清老中清列座
法仰渡之

一 十二月朔日

酒造之儀ニ付法書付を通酒造石敷
書上案紙を通出

同日

中納言ニ法任

尾張

一 十二月十四日 法書付

奉行所支配ノ所ノ外小給ノ面ヲ
拜領屋敷ノ内ニ地也借一又其借家
立ノ商賣人ホ輕交ニ由テ差置中事
古来ヨリ清制禁ニ由處猶又其事由
本軍中自今以後借地借家ノ事
出来ルニ由テ其地主也違犯
法沙汰不行ニ由テ急度言旨
可也人治者也

未十二月

一 十二月十五日

金拾枚

任官之儀禮

時服十

尾張中納言殿

真沛太刀國重

隱居之旨

沛刀

左弘母代金貳拾五枚

秋田信濃守

一位様

古今和歌集 伏見郡高親王筆

代拾五枚

月光院様

同 中山中納言宣親卿筆

代拾枚

一 十二月十六日

元録金新金銀通用之儀 付書付出

一 十二月晦日

夜八時至大名小路へ出火 付大名三軒

沛奉書出當番儀持系

是日法側用人本多中務大輔殿屋敷火元 大名小路大火翌申、元日ニ至、翌元日又増火消比 作付タリ此外大名元日沛奉書出申、是日未 日記不見故難知

後代方萬年記卷之貳拾三終

貳拾番組

高尾惣十郎組

書寫

東仔兵衛

校正

前島鉄次郎



